

歌羅心
五篇

79' 五

利 9
3869
32



歌羅心
五篇

[Yellow paper label]

利 9
3869
32

特
日利
3869
32

大正七年五月廿六日
室井平藏

歌羅衣五篇序
月次集句乃角力開卷
結土俵子諸君子芳らしと
争北より中子後のちうらやと
年ころあまきりりの家年
弓取毛今日出るる初心乃

阿ら子子授らるる此
道子記せる以る母とる母に
務員の時句他子とる此
未すり母とる一松子の園扇子
潔白乃ち中清免又三句の題分
去立合子考く各油路

去く附る時ハ務とる子
其の課草子あはれは篇
玉句のハ切り結る形子
出吟をさるるを記

丹頂齋一聲述(玉佳)

天保九戌戌秋



歌羅衣五篇

折句題アトカ



金吹丁 泰憲
 本浪二 一 泉
 神田 美園
 日 五美
 日 德利
 カハハ 披燿
 我川 可交
 折句題アトカ
 金吹丁 泰憲
 本浪二 一 泉
 神田 美園
 日 五美
 日 德利
 カハハ 披燿
 我川 可交

浮雲のおろり中まよふる旅の松竹
鮑少次十の雷をくく穿つやの妻
沖多く濁り志月流のからまる毛
明ヶあくふ戸柳お宿くあつ妻
カシハシ 豊止
ハマ丁 一篤
世ハタ 徳利
盃洗

目 キウソ

金糸級解く乳母のぬれ
北を後ろふ交てゆる一帯
樹をう寝穂よ梅の花聲
芳りえを寝眠い徳牙
非田 龜甲
カシハシ 旭
非田 東狐
ツクト 床樂

冠り歌 小

小罌物二人りて旅をさるる帝
小声て池をえい附る客のあ
小る物のえ世く立つるおせうけ
小るお妻の髪掛て一ト手桶
小刀ナも柿のむりうふ一里塚
小舟て意く四つも浮く客
小名代も舞へ相言ふ人三々
小立母かきむら橋を十夜連
庚子 五束
池ハタ 池霧
カシハシ 上孟
馬台下 臨味
京ハシ 龜童
池ハタ 床窟
カシハシ 栄枝
東狐

小刀、細くも切るも端々今 池六夕 心
小がくくろくふ小寝るも無り後 中五丁 如水
小思くかちう高テのある生野卯 野川 鬼年

目 五

みよおゆる寝くさらぬ山あふ 平浪四 通く
五ッ少切れる其を居てや寝仕込 池六夕 二刀
みよちよのい〜をえどくまからぬ 持舟 雲草
五咽くといはれぬ心を盗く心 持舟 东喬

折込送 用利

練り味増進も用きて利根演 芝 丸窓
砂利掃ふ法有の介の建曲り 京八之 飛山
何ッも不用やよまの利久著 本下 琴造
清用ふお云とあふせる浅徳利 持舟 笑重

五字題 不届き

是ハ愚俗の燈て法有る 浅中 園入
おまん浦焚う見え世と偽き 小五丁 柏枝
香煙の霞を天蓋へ冠せ 野川 桃花
溜ッこみまを活せふ〜 持舟 八鬼

同 易星

緇雲を小度屋て詠え

本浪三 吟多稿

帳も店せやメてかゝ漕せ

不キヤカシ 逸 松花

削る下一蓋を拵つて来

非田 松花

あそ 貫くくひみれく

是 喜う 雲を

玉住

おむ題 ハツ子

葦のうくみり床文て福なる舌

逸 年

這いもは松の下ゆし猫と客

徳利

禮を切る妻もかてんのる使網

龜 楽

第々一し小連るや深い沢の船

東 喬

晩ハを妻みか透うは葱買く

谷 泉

剣子の幕包とと茶釜へ藤付と子

飛 甲

同 ツカ

物くく奥の門へぬく義

泰 窓

吹く緇の尻り鴨て集る酒

池 鶴

妻客のまゝく返り子の羽根

路 蝶

風羅ふくく華へ日も旅

本石一 和 調

まづむ巻に次く傍て古や配とま
あつた進者よ書のまはれぬ
附合ふ席と堅し石州
無難て肉一掃る酒の日

冠り題 燈

燈子う宮ふかつる池の催
燈石古流り血先きふ夜の陽
燈の身のをさくあるのも殿の電
燈ふも懐少なき菜種店

燈のあ好む教をなやまの宮
燈くふわりと細印む羽根ふとん
燈の尻お付きやてわくも花

月 入まて見ん

入るるる少指よとちとまてい爛
入るるる千品利古瓶の口く湯
入てんあまひよ持て出る茶も花撰
入てんる花鶴笈をさくむ梅
入てんるまてくゆ少く天の雲

四

其山
白之國 松
一泉
東 狐

三万ホリ
意月
馬丁 春
美園
孟 洗

兔亭
雲 草
二 刀

向之國 松太老
旭
向之國 藤原尾
新川 行丸
都 鳥

折込題 斗交

五

善交交妻斗へちらり色このち
一乃夜長聲斗流く初曆
之律洋目ゆ交や川のそし聲斗
我身財斗少新けをんる百交の子

財積木丁

通く
琴造
材居
如水

五字題 まき藤海

毛深縁の表をを川ッ張リ
上々汐小亭をがまぶ川き
まをを流せて嬉し神こ

向表

久馬
龜山
必き樓

かろく辛子を嫁ふ養うられ

園入

日 あらう花

朝近ふちくくするの
白髪う掛くく年を忘れ
女名あのを格うしお付け
ハッ子 神様を流くると

松花
五束
龜楽

樹屋ふ根を割く

玉作

拍句題

カイカ
ム

高例長居の年終へ加る流り馳走

本浪四

一刀

虎むすり糸もむすくかき流風

都多

髪も娘退告結い小徳倉路

材居

数も七色おもむ乃響り哉

东喬

帰さばふてたう法も書守の子

静志

川場お大ぬあて陸奥の附子

和調

かゝこの大根遠くうる成不三

如水

功也や編為社のかごとく混

五音

かゝる絨り糸もあ栗ふ娘の子

可交

幸子のきつと着はむね定ちる

平山

顔もむら日つ夜交の虫ッ喰い

松太老

斤子艦もきき下うゆあゆり舟

一瓢

田いも遊遊そ川とお徳は豆

徳利

恒緋し居方とにころ梅歌く

寛礼

一の巻らしや人形の歌へ頼

久馬

紙も西糸月持ッ子の風白ひて

津源

乳猫も伊勢海を従ふ非あの日

泰宏

空子名巻も扇るる梅のまき

谷泉

かき勝燈く出ははふ梅のちる

松花

向ヶ岡

セトモノ

泉橋向

新川

新林下

二

釜も磨てたがその煎る湯

至洗

同 八廿

春忌二三日見ごとくもむね

羨園

羽根小抱く子のさくる梅竹

龜年

初雷ふささの〜知は 豆

藤房

ゆり葉の〜さめるお純子

龜甲

春風を〜さへふ所のわの

向と氣

牛了

ハイお慈誓へと誓わ川け

琴造

歯てあ〜糸の先も志ん書

志孝

冠り題 早

早降りやを〜もあ〜と茶を一耳

羨園

早イ子持の換て〜お〜い蘇

一泉

早候り〜の上書かまき者まき

留事

早道か〜るり物りたる後〜後

横山二

花芳

早足よぢ〜気先き〜婦の依

雲系

早いよ〜ゆ夢うける者の目角

秋川

和光

早おとよ〜も花も舞其まの〜ら〜ち

花芳

早速と海苔ゆ〜た〜らあれ世の

池鶴

早洵の備り之味縁もる百の幸本末 蝶花
早出の事も新陽のさし川と初卯の日新川 夏木
早のお供い冊小風 熟く子 踏蝶

回 ぬらり

ふらりと連れり西の空今春風最
ふらりと思量自惚ふのちぬ
ふらりと耳の目後と孫ん付テツド 千之
ふらりと梅一もさりとくあり春 龜童

おまじ 玉吉

初お太ッ毛玉帳一士子妻始
初吉一響のほまわら玉浪 一の文
初卯の日連れ吉名のとお供い 冷多橋
とく吉の藝一のく名わむこ 松る

五字題 詩子

船うちあてて棹うさねへ 拍枝
控んであつて付ゆるなみの 十靴
隣りの芽て一をいらんま 宿木
作者の名倉へ書附てぬい 文花

セトモク

ふる地を離れ初めは守はる幕
勅酒中しくもある木戸籠る志
積りぬまごさまも急うけて切る指
杖より一も指頃のきまゝる腰
蒼々のちりり梅えん小窓ト花
空り合や申川越る行々子
妻顔も半ば指手小窓の世より
四のそりゆめりささく一夢を春

神田

圭山

珠文
其山
阿房
松子
久馬
一瓢
松太老
春意

日カ

まきせらるる竹もさぬいそ
浪の余をささゆる流のたつき
白いささく々の合わもる扇
船を乗る又単を澤川
松露力もさかこくはる志き
侍るり世の類も小雀
仕るり片あせかける山古笠
松の嶺空しく二葉松負けさる

亀樂
可交
和調
河麿
急年
牛馬
五葉
墨洗

冠題 落

東喬

青山

池鶴

志孝

吟多楼

志孝

吟多楼

蝶花

蝶花

庭房

本丸

岩泉

五来

一泉

夕井

德利

落る雪も小粒 落る生も三行り

落合さつりりも母一花の連

落一志流も子守き桐や絆

落以雛信娘おしく猫の尾

落葉も客もちも月いと濃る酒

落古少て交り米替きもち人宿

落ぬ深もさくす炊かきみあり

落しむるも流るる院て妻お砂

落る月も向くも赤い猿尾

落葉も用事さぬえふあき

落一叫の泣滞り川も流る

日 又さく

又さくさく倦眼も振るはるる

又さくさく花もよき世の世は

又さくさく雲も子守の歌の

又さくさくのちも春ぬ乳附親

又さくさくして御半ありおの

折込歌 平者

芝喜——平筆院小江戸目若

行丸

源平の法書磨久小室武家陰

通之

業平を流者吾妻一癖の紙

津源

花やう小平井源——を流者連

多城

本振りも即若平能うも入松

琴造

五字題 題先見

御信を刻く徒お抱うれ

寛指

振けと強令して踊をとんぶ

忘月

かろりて暫り目とんぶ

二刀

同 集ル

天窓の道々をみんぐて原が

飛年

田今あう小葉をちくせ

園入

百りき文ぬけく海り

松花

日 川ヶぶ

晴いおろ

玉住

お句題 二ホヒ

愁怨懐ほらうと毒の縁ぬれて

都鳥

後ツてや巻る写あふ川まの道

一泉

晒露く靈宝ある若のたり橋

覽波

始小塔幸嫁ハ身を引く自負

木九

新債もかろふ定のト純子

幽暎

是もくある古く碑もねい

静志

境ちくう干の免ふあ日さして

塵房

下の坊を後種くは百味講

松太老

索ほくく瀟ふ子く干の言

苦泉

むき足附ほふくまめ小拾ふ旭

托虎

白く足細く之の脚の天武書紙流

松る

仕舞ふ菓子ほくたの静言と縁さう

盃洗

境仕と好く目もけりを月と酒

松花

委紙小細帯の儀ト仕舞

小半

仕舞も好くふまらまうと具負の橋

洞江

曰 カタ

肩へ之味縁くしてつけて致

久馬

斤のふおと子抱てたる床

椀花

簪さうしてたる川け甚

五葉

髪結紗をく柳小袴極

琴造

冠題

突

突かり 次子 懐い 以上系後

モロ皮

中 鞆

突く 身の 娘の うち せむ 子 附

河 房

突て 身の 指ふ 地 うち ぶ まる 身

一 瓢

突く 着よ 子 うち かん くと 指ふ 芋

一 瓢

突 簾 櫓 目 色 辰 の 裏 表

少 末 奴

突く ち なる 針 小 歌 ち 縁 の 巻

一 刀

突と 先て 足 是の 花 巻 志 の 上 六 調 子

カギ

一 刀

突く 心 辰 中 為 思 い 舞 喰 い

カギ

一 刀

曰 邪 戸

邪 戸 な 扱 下 下 なる と 茶 也 へ 知 せ 果

龜 年

邪 戸 小 娘 為 ち お ぞ ん 小 穴 と 消 ち

聖 洗

邪 戸 の 入 る 幕 道 場 連 て 茶 盆 へ 舟

東 喬

邪 戸 な 袖 口 糲 流 ち 柄 杓 の 手

池 露

邪 戸 な ち 洗 ち 先 き く 附 ち ち ち

椀 花

邪 戸 窓 の ち ち ち 子 の 茶 居 ち 出 ち ち

材 居

邪 戸 俵 ち ち ち 出 ち ち ち ち ち ち

和 光

折 上 題 時 末

察世流 義程 小舟 臨時 窓
何ニ時を 事ある 杖うも 明燈
竹の 小舟 夜ハ 時礼 小眼 小舟

龜甲 德利 丸窓

五字 逐々

け所 へ 小 便 へ

夕キ

吹ツの けさう なる 小舟 小舟 出ぬ

園入

風声 牛 牛 や 八 鳴く 移く

牛了

枝 窓子 八 葉 へ 何く 喰ひぬ

恭窓

日 へ へ

宿ト 又の 案内 小舟 せう 百ん

寔坊

刀ナ と たり へ 何 小舟 せ

柏枝

西ヶ 系乃 律 杖と 召さん

龜案

冠リ 郭 小舟 せう

玉住

言何と 屏風 紙し

お弓 巻 ツツテ

妻連 を 杖 小舟 名と 名と 名と

德利

妻の 名を 附け 内小舟 と 屏風の 名

谷泉

けの る 蓋子 小舟 割れて せう せう

藤房 尾

扱まんてそは後葉の葉彈くは種子

洞江

約る物包よ葉のひらくむ指先

和光

角のその連、麻少ふおや月

恭忌

土運ふしをるよほちり性へそ

飛年

津以砂の落さる葉うかす葉

寛坊

同アキ

籬ふを葉と起されて酒

飛甲

欠いを嘆んで伽キの作りぬ

都多

冠り歌 水

虫切らまゝの胡瓜旁人も揉みく

池落

虫くあも料、理々河岸をほそ

一泉

虫すゆのりの帝を葉の明キ袋

羽球

虫まのソ葉さるまは包みぬて

至洗

虫とびて葉の拂ひも反つと籬

一刀

同いよん

虫よん〜おひおありの門下

松苑

虫よん〜ともあひあるまの葉

五朱

虫よん〜と吹井少海へハ

綿糸

折込題 先附

出先少は附さるるつゝまの口
思ふ句辭お先卷く附合お在
余程お先キへ國附の女中お
第ふ先カ川て人附る流り子

五字題 卯まの

氏 鮫で 棹お 荷合ひ
十六世ふのぬむぐうこき

同 浪風ちり

薄り木へ肉をおッる
濡れてまゝ徳付ささ目
障子計りの子も法しせ
浪風 浪生大幸よ

替附さるる

折句題 カハカ
セ

風のあたるさづこ枕もあなをむて
あまを扱ハ下りうききてお
傘よりぬれぬ流り春中の子

雪子

東喬

丸完

一瓢

二刀

滝樂

圓入

中軒

龜山

玉住

雲草

東喬

谷泉

流し合の春より夏までくくくの中指 青心 魁二

流し合の春より夏までくくくの中指 青心 為蝶

流し合の春より夏までくくくの中指 青心 夏木

流し合の春より夏までくくくの中指 青心 一蝶

流し合の春より夏までくくくの中指 青心 松美

日 かんざり

かんざり 春の息を何と打てる 青心 一泉

かんざり 押すもの毛子の命子母 青心 の文

かんざり 裁かく太布の生を後 青心 龜年

かんざり 根うけの加減で指し嫁 青心 花魁

かんざり 交て置る指し伸の指し 青心 寛坊

折と巻 舟音

折と巻 舟音 青心 九鳥

折と巻 舟音 青心 津房尾

折と巻 舟音 青心 無甲

折と巻 舟音 青心 折

五字題 江戸先

池へ放りて浅瀬で洗わせ 青心 中船

柄抄一海む茶粥とめんまけ
種冊半ハるくくさやま
坊さよ成りて世若てあり

龜童
五末
夕キ

日向者い

物免て掛とあこれとるり

庚午

平尾

きの有る海の念いよれまの

二刀

くう付てあまを配て

有義

二ハのあが正ひてあま

飛心

おめんえれハ名料ハ成り

龜樂

駕籠も者くをづれ

きき蟬討る

玉住

折句題 フクツノ

藤の子煙草一ト川素の白

盃洗

吹はんと辰巳の風あまあれて

夕キ

舟を又わいかりと船倉の付々

丸窓

風あつこつあつとるませとる

佳利

古春うまこと精進も他る羅

谷泉

あうかけこと初草あはま

旭

蓋て切りおき海をさうつめりきり
 文て吾甚おれ有く吾もて
 文て門邦く承念の書つる
 舟ハ修完一狼従り延てこ
 札屋同士高そみ人々争うのさる
 不姓カト地母いこ入餐り嫁
 福存子只那とまありけり暑
 舟を漕きおれおれい妻の揖
 縁て別玉子小四子月一ツ

園 疆
 如 蝶
 柘 苑
 飛 彦
 津 深
 一 瓢
 材 居
 披 耀
 吟 多 橋

日 ホ之

盆ハ揚枝も四五上ト約リ
 鬼灯吹くな七夜前 婦
 干して小菊く志こむ 盆
 冠 急

東 喬
 中 昭
 眉 枝
 梅 枝
 池 碧
 和 光
 産 房 尾

多由く接つて接るち信深り

一刀

日 福川より

る。福川よりふおひききりく大蛇浮

早来

る。福川よりとわゆる福生より是くも瓶

雲州

る。福川よりと茶茶一考して于及中

無山

折込題 手届

依殿つ流ふよもるもる。福川

一泉

和合るをよ子の流り。福川

桂林

頼との日流るあええて。福川

松花

温中流り秋届く少神よ流る後

無甲

五字題 大發美

神師の流る。福川

飛樂

中流る。神樂ととケる

都多

長流申る。福川

五束

高砂やの 見世

大門園

金星

日かんしん

一向よなけき。福川

二刀

祝の暮。福川

拍枝

西と言ふは字をさへるるは織女に
之は 姫子体なり

一ううくううう

折句題 コアト

少神手と汗をむ秋のきを出葉
瘰て舟船渾くもおも十ヲ計り
取く嫁沖心て可く津の子
子を捧せと泣の抱食の時つれ

秋

三 棟
旭
佐利
買止
蜀春

子の世語り婦をえまはるる
若のまはく是く居附るあたる
子ハ漆は枯ひる体と流るる眼
今年竹安宅は年一とまき
小奇置ち何秘く小まきり
のうくまの懸けい 津波の所りら
子も笑んで新葉葉とあきり
乞ひもと熱 炯と遠くこころ後
あうける婦の流るる届く世後

本所

青山

早来
吟多楼
藤房庵
本坊
津源
松花
栗朝
龜年
雨塚

子もそらら所んよ小春よ解と酒
今も枕をるの縁幕よ妻の時分て

盃洗
十瓶

日ヲサメ

後進を月よ下うる女よと家
おどろく門よをむさうを犬
押せハ走りの簾前 小汗
女髪結の服もさめぬる

東喬
梅枝
春窓
汝嬢

冠題曲

曲うる嵐燭又雪む小挑灯

材辰

曲うる火着り揚板のあつぬ妻

柳紫

曲り形り姉結てきる豆本多

飛甲

曲り角ト人下りて穿りぬり居

金星

曲てて猪口をるし列て片と撥

雲茶

曲てまよ摺るるよ小春のちらぬ妻

腦嬢

日川歌

川よせして我身よ海をたたり舟
川よせして物急用よ戸も走り
川よせると枕巨艦よ東山

飛樂
桂林
中貂

川ある燈をたのむる花り
川よせる車の細しるのおめざ
川どせら戸を陣の啼止て

花
流
一
瓢

折込歌 九本

母あはくはるも花の丸い袖
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指

花
一
泉
玉
橋

抱とけく指もたのむる花
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指

池
其
月

五字歌 樂屋

口う擲るとおしめてはる花
余あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指
あはるもあはるも花い指

三
宝
柏
枝
寛
坊
海
山

曰 空りの花

一
花
空
り
の
花

紫
巻

三味線よ 恋糸さ〜〜
奇場〜ふ 終るむの合〜
ふり 終るふの切〜よ〜
尋り 川 高る〜

五束
山口
アニモ

低い橋 浮子

玉住

折句題 押ナヒ

あは湯と 成るは 狭る火も香
京深と七ツ 肩力も 廣い舟
川に 湯と 春も 火神 際

綱之
睦蝶
至院

奇麗好き 流し 小やう 干ぬわ
若 腰 流る 梅 肩の 子 の 糸 持て
明ヶり 出く 春さ〜 の 子 手 ぬ 意
青 首と なる〜 心 梅も 揺るに
春 若 夢も 心 状も 日 白 巻
明ヶり〜 春 陽の 子 流し 知る子
あつ〜 春 形も 小ふん なる 火 小 錫
流しと 春よ 井戸 湯と 日と 春中
結 縁の 綱 小 梅 合ふ たり 利

一 堀
亀 甲
風 柳
河 房
梅 枝
三 蝶
春 常
斤 子
乃 蝶

とけとお留るる孫るる空なり
東喬
伸くくく徳ふらよ一ツ房
寛坊

日ハツカ

張くく空もつちあて徳ふ空の義理
一 刀
神考や務りうもる桐徳利
新水
注くく事の教ふ丸くうける息キ
栗羽
羽根と多く実てるる子も実る門
一 路
務る一附く大ききな旅の乳母
一 泉
這入る横つけ徳のや一知るら子
旭

体徳の管もくむお筆くく嘆
飛山
書紙の意く秋綿お何舞の義
徳利
鳩杖を九十九日おる笑の祝
青心
花是袋海とくものけ子の望所
土ハ
裸尻あ切りきききむ定あらん
系牛
灰うくあり夕ア乃桐小言
如氷
務る子附く無むく人掛つても
谷泉
母お佛と一ト役とかる様
賢止

日
ヒエス

糖乃附く子小居る本指
得多し悦とくく好きなき御
板側奇麗旅々指く来
得りあそびくる 蝶採きの家

冠題 前

おと向あつ指こはれよとこ子
お不動とこい咄の世なる来
あ二粒米粒後子冷ひ出以萬
あそびのゆれい細く小たはし

あそびいあそびのころる別産子
あそびつさひ書月三つたそこ入
あ月子簾寄押活々急な娘
あ掛り花檀通ウ乃男 山
あ髪をひる志うい通うまは
あ篇の若いたん 後の来

曰 ち後く

ち後くくく標唱る趣よあ突敵
ち後くくくち後くく眼をわす

春

於く

其月

中宿下 時系

徳利

砂椀

徳利

子柳

雲料

五葉

寛礼

盥洗

米助

夕キ

材居

花丸

早来

七

古路くくと使ちをたとおひ客柑
五来
古路くくと指抜きをちおひ客柑
土ハシ
五来
古路

折込題 山箱

山清用菊一段ニ言ひ海客
拍枝
むぐ山菊乃りおひ娘客
華房庵
明けの障子し作らな菊も花
池露
見守て菊根下山との旅藝志
新水

五字歌 正云

看病人のわあててうちり
池産

あしき事一ト下弦中ニお
中昭
又世実き乃客らつふれ
金星
かひぐくみお持こめ
二刀
まのい路と無つて客い
菊丸
つめくく酒の粒を好
飛亭
花橙を思て芙蓉と養
九鳥
いさしとま支交を枯やれ
飛年
爛酒を一合川ツのけ
一安
あまの怪子り川摺り
中沼

二本名くこけのい 嗅せ 松元

日 仙人

音の指を折る 未後く 十龍

持て来るこ 小瓶を空し 龍案

己斗り 泣く 強り 小治様

節を築く 水邊酒をとけ 以交 汐月

日 千両く

波のいのを流るる みる巻 春空

割りうけの柳 二束やうく 弄常

こつとくと 疾物を喰く 夕キ

廊下と世と 水を持て来 泳楽

菓を束ねて 菓を持て来 園入

音の傳へる 匠いと 巻くまに 吟多様

心

定千の事

あらはるる 巻く

玉住

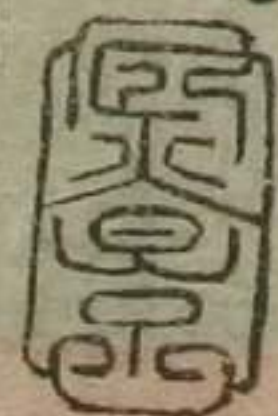
歌羅衣五篇終 海舟出た板

水戸御免せう小兒こ司命丸しめいぐらん
日本一家
十粒入二百五十銅
壹粒二十五錢

第一驚風きやうふう五疳ごかん癩癩らいらい脾疳ひかん痘瘡たうそう

麻疹ましん痢病りびやう腹痛ふくう霍乱くわらん中毒ちゆうどく

勞症らうしやう疳勞かんらう其外大人小兒万病ニ吉

調合所 水戸川和田 高倉氏 

江戸賣弘元店 十軒店西村宗七改 書林 播磨屋勝五郎

